

酸性雨のモニタリング状況

1 調査の目的

東アジア地域では、大気汚染等の深刻な環境問題を抱えつつ経済が急速に発展しており、将来、酸性雨を含む越境大気汚染が深刻になることが懸念されています。市でもその影響を監視するため実施したものです。

2 調査内容

(1) 測定期間 平成27年4月～平成28年3月

(2) 実施機関 郡山市環境保全センター

(3) 調査地点

朝日：環境保全センター屋上

堀口：水道局堀口浄水場屋上

(4) 調査内容

pH、降水量、陽イオン、陰イオン

3 調査結果の概要

表1に調査結果を示しました。酸性雨とは、狭義にはpH5.6以下の雨を酸性雨と呼びますが、年平均値は5.1及び4.9でした。また、図1に地点ごとのイオン成分沈着量を示しました。

図2のとおり、平成5年からの測定結果でpHは横ばい傾向にあります。

表1 ろ過式酸性雨採取による調査結果

調査地点	年間降水量 (mm/年)	pHの年間平均値	年間沈着量 (単位:meq/m ² /年)											
			H ⁺	SO ₄ ²⁻	NO ₃ ⁻	Cl ⁻	Na ⁺	K ⁺	Ca ²⁺	Mg ²⁺	NH ₄ ⁺	Total-ion	nss-SO ₄ ²⁻	nss-Ca ²⁺
朝日	977.4	5.1	7.5	30.4	12.6	23.2	11.7	1.6	15.1	5.8	14.0	122.0	29.0	14.6
堀口	1345.2	4.9	15.7	25.8	12.3	27.1	20.9	0.6	23.4	5.6	12.2	143.5	23.3	22.5

図1 ろ過式酸性雨採取による調査結果(地点別)

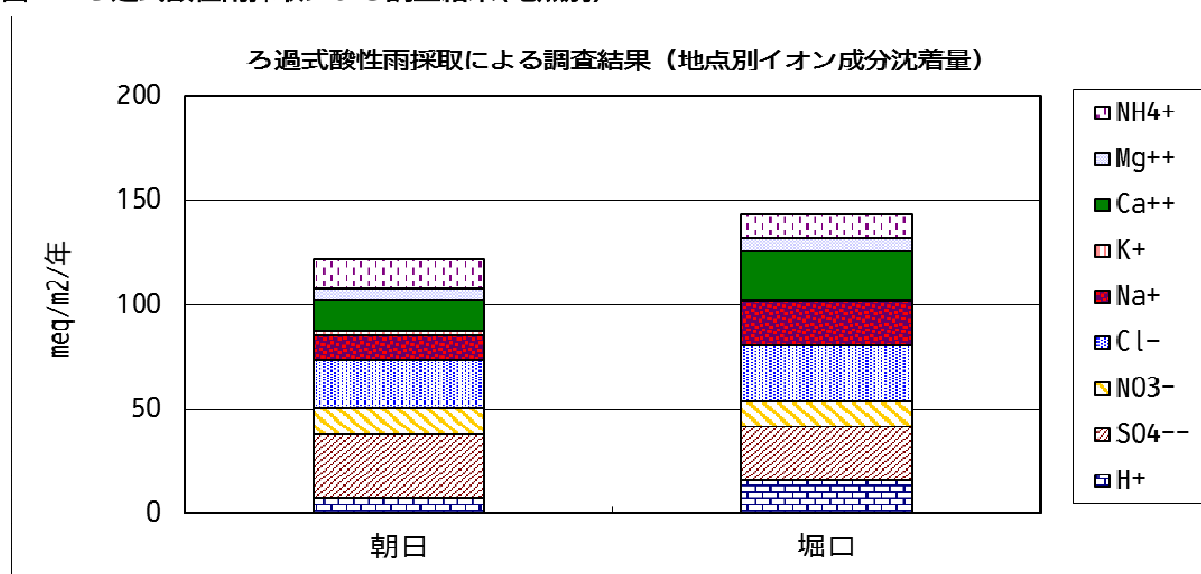


表2 酸性雨の pH 平均値の推移

年度 調査地点	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
朝 日	4.7	4.6	5.0	4.9	5.0	5.9	5.1	5.2	5.1	5.1	5.1	5.1
堀 口	4.5	4.5	4.9	4.6	4.8	4.8	5.0	4.9	5.2	4.8	4.9	4.9

図2 酸性雨の pH 平均値の推移

